ハノイ　1976年　3月

岸　本　文　男　（鉱　床　部）

ハノイ東北 40km（?）のダー＝フック空軍基地に着いたのは1976年3月24日の午前9時15分であった．　気温22°C．

乾季から雨季に移ろうとする3月下旬のソン＝ホン平野の上空は大部分が厚い雲で蔽われ　陽の射さない地上の掩体壕の中にミグ21型ジェット戦斗機が18機　その特徴ある三角翼と機首のコーンをチラリとのぞかせ　37.5 mm 連装高射機関砲が少なくとも12門　キャンバスに包まれてはいたが　砲身を空に突き出し　その背後では緑の塗装をした　いかつい車の上でレーダーが回転し　草色の軍服を着た兵士たちがレーダー車にとりつき　あるいは警備に当っていた．　そこには　サイゴンを解放し非願の民族再統一を達成してから1年後　なお侵略に備えるベトナムの姿があった（第1図）．

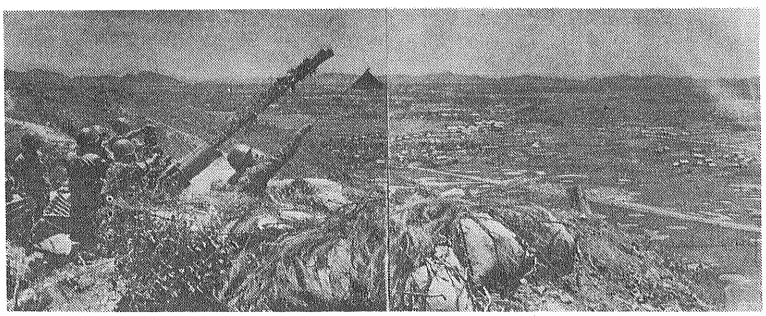
ロン＝ビエン橋

ソン＝ホン河（紅河）にかけられた長い鉄橋を渡ったところからハノイの町が始まる．　この鉄橋の中央をハイフォン行の列車がゆっくりと走り　左右1車線の自動車道が　さらに両側には人道があって　人も車もその往来は賑々しい．　橋下には赤いというよりも桃色に近い水がとうとうと流れていた．　ロン＝ビエン橋　これが鉄橋の名前である（第2図）．

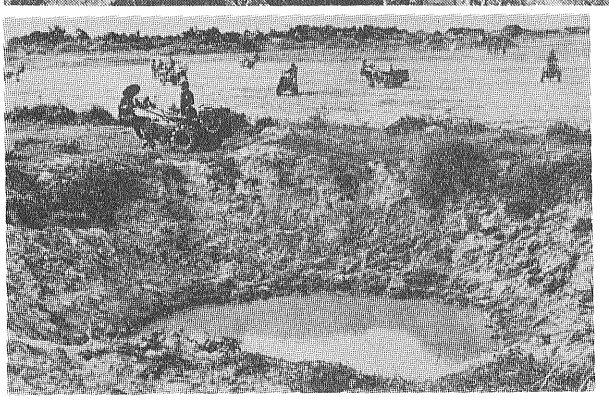
チェコ製のマイクロバスの中でベトナム旅行社のタイン氏はこの橋について次のように語ってくれた．

「この橋はフランス支配者が1898年から4年かかって作ったのが始まりです．　長さは現在1,682m あります．1940年9月の日本侵略軍も1945年8月の蔣介石軍もこの橋を渡ってきました．　1945年9月2日に私たちはホーおじさんを主席として独立しましたが　翌年の12月19日フランス軍は我が国に最後通告を押しつけ　実際には23日から全国的な対フランス抵抗戦争になりました．

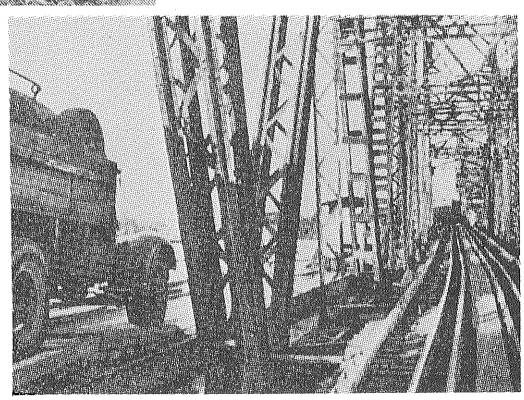
フランス軍は飛行機まで使ってハイフォンから大軍を送り　ハノイに攻めこんできました．　それもロン＝ビエン橋を通ってです．　粗末な武器しかもっていない我が戦士たちは政府機関を守って闘いましたが　全滅を防



第1図上
かつて　ソン＝ホイ平野の町々を守るために戦い続けた37.5mm連装高射機関砲．　今もあちこちに陣地が保持されている．　平地に見える爆弾の跡はほとんどそのまま残り　深さ8m位ある丸い池と化している．（画報“VIET-NAM”より）



第1図下　爆撃による破壊の修復に懸命な1966年7月初旬のダー＝フック防空戦斗機隊基地（画報“VIET-NAM”より）



第2図　復旧直後のロン＝ビエン橋　現在ではもっと整備が進んでいる．　橋の撮影は禁止なのでベトナム文化省発行の画報“VINT-NAM”から転載．

ぐために　数100名の戦士を市内に残して北の山岳地帯に退却しなければなりませんでした（第3図）.

残った戦士はハノイに住んでいた主に労働者と学生・教師たちで　主都連隊と呼ばれる決死隊でした.　まるまる2ケ月　一軒一軒を争う市街戦を続けて時間をかせぎ　その中で数1,000名に成長しました.　そして　フランス軍が固めていたロン＝ビエン橋の橋の下を夜の間にコッソリと渡って　北の山岳地帯にのがれたのです.

1954年のジュネーブ協定によって我が政府と人民軍はハノイに帰ってきました.　そう　このロン＝ビエン橋を渡ってです.　その先頭にいたのがハノイ出身の戦士たち　主都連隊の戦士たちだったのです.

でも　アメリカ帝国主義者はジュネーブ協定を一方的に破った上　バック＝ボー湾事件を作り上げ　すでに1964年7月30日から我が国への砲爆撃を始めました.　ロン＝ビエン橋が初めてねらわれたのは1966年6月29日で50回以上襲ってきましたが　1972年12月18日にスマート爆弾で破壊されるまで守り抜きましたし　代りの橋も1日で作りました」.（第4図）

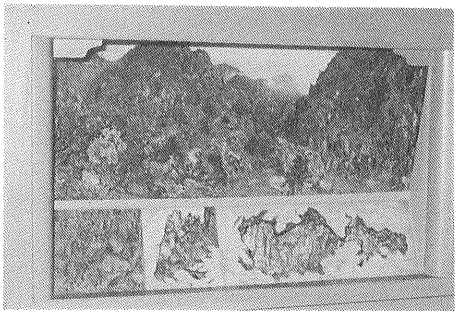
ロン＝ビエン橋のたもとにもソン＝ホン河の土堤にもフランス軍が作った厚いペトン製のトーチカが点在し（第4図）　恰好の防空壕になっていた.　橋そのものは継ぎはぎだらけであったが　それだけに輸送をとめないために苦斗した日々が強く偲ばれた.

ハノイで

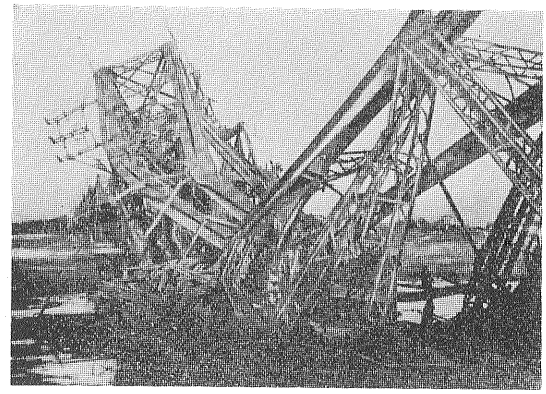
ハノイは今ではベトナム社会主義共和国の首都である.だが　1976年3月のハノイはまだベトナム民主共和国の首都であった.

この町は北と南で姿をガラリと変える.　北半はベトナム本来のゴチャゴチャした町並が続く庶民の町であり南半はフランスが作った高級住宅地で　木々の緑に包まれた〝小パリ〟である.

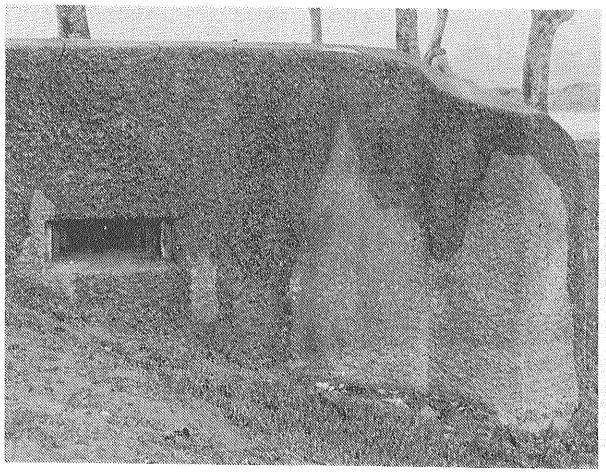
町の北端にはソン＝ホン河が作った三日月湖ホー＝タイ（西湖）があり　その広々とした湖のほとりにタン＝ロイ（勝利）という名の立派なホテルが建っている（第6図）.　1975年にキューバが無償で建設した近代的なホテルで　ベトナム北部では唯一の「いつでも栓をひねれば熱湯が出てくるバス」を備えたホテルであり　日本式庭園を有するホテルであった.　各国の商社マンたちは



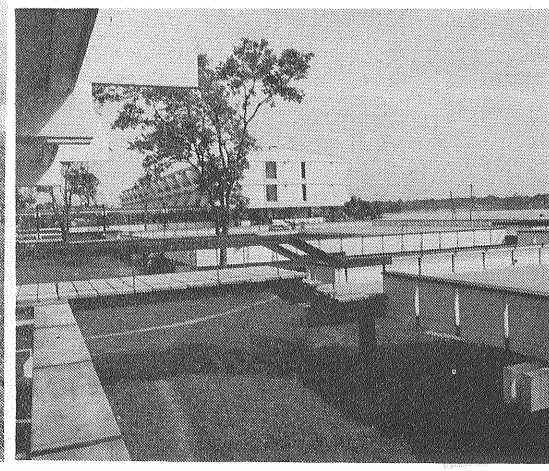
第3図　対フランス抵抗戦争の際　ホーチーミンが住んだベトナム北部山岳地帯中の洞くつ.（ハノイの革命博物館に展示されているパノラマ）



第4図　スマート爆弾によって破壊された当時のロン＝ビエン橋（画報"VIETNAM"より）



第5図　フランス軍が残したトーチカ（国道5号線で）



第6図　ホテル　タン＝ロイ（午後2時）　服務員たちは一堂に会して学習に余念がなかった.

もっぱらこのホテルに宿泊し　商談もここの大小幾つかの会議室で成立するとかで　私もここで日越貿易会の人と逢い　彼の商談成立の楽しい話を聞いた．　食事もうまいし　服務員と呼ばれるホテル従業員も親切だし　またテキパキとしていて気分もよかった．

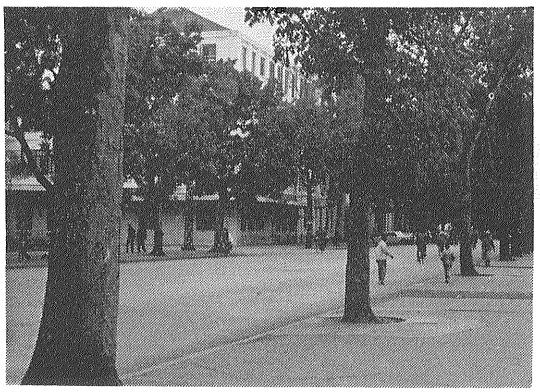
だが　国をあげて爆撃による破壊から立ち直るために努力しているベトナムの中では　豪奢にすぎる感じ．そこで　敢て頼みこみ　翌日からハノイの中心街にある古いホテルに移らせて貰った．　ザン＝チュー（民主）ホテル　そこは湯がうまく出てこないだけでなく　トイレの水洗にも難渋するという　民族の独立と自由のために快適な生活のすべてを犠牲にしてきたベトナムにピッタリのホテルとして　以後　ハノイ滞在の期間中とくに苦痛を感じることはなかった．　夜　運よく湯が出ると友好訪問団中の４名の女性のために　男性陣は喜んで部屋をあけ渡し　各自の入浴を断念して不平を口にする人はいなかった．

ホテルといえば　日本でしばしば耳にした　もつとも有名なもの　ホテル　トン＝ニャット（統一）は歩いて３分とかからない所にあった(第７図)．　その３階に日本大使館がおかれ　５階には日本電波ニュース社と新聞「赤旗」の特派員がそれぞれ住んでいた．　しかし　その２人の特派員はホーチーミン市への取材に出ていて留守　日本大使の黒塗りの外車が何となく異質な存在のように印象に残った．　このホテルにはドル　ショップがあって　ベトナムを代表する土産物が並んでいることと飲物が美味ということで　回転ドアーを押しながら出入りする機会が多かった．

ハノイはベトナムの政治・教育・文化・経済の中心として政府機関はもちろんのこと　教育機関や文化施設が集中しており　国営商店も自由市場も賑やかであった．日本でいう通産省に相当するような機関は国家計画委員会（主任レ・タイン・ギ）　電気・石炭省（大臣グェン・チャン）　軽工業省（大臣ブー・ツアン）　商務省（大臣ホアン・コク・チン）　対外貿易省（大臣ダン・ビエト・チャウ）　物資省（大臣チャン・サム）　石油・ガス省（大臣ディン・ズク・チェム）に分れ　試験研究所関係では科学技術委員会（主任チャン・ダイ・ギア）に例えば地質委員会という形で所属している．　私が見た商務省の建物は大通りに1.5間幅の入口が直接面して階段も前庭も全然ない古いビル　５階建．　それに反し外務省の建物はバーディン広場に近く　樹々に囲まれている古風で品のよい建物であった（第８図）．

ハノイにはとくに官庁街と呼べるところはないが　バーディン広場とその周辺に　例えば国会議事堂　外務省（大臣グエン・ズイ・チン）　国防省（大臣ボー・グエン・ザップ）　ベトナム労働党中央委員会（第１書記レ・ズアン）　総理府（長官ダン・ティ）　教育省（大臣グエン・ティ・ビン）などが比較的かたまって存置されているにすぎず　爆撃もほとんど防ぎ得たとのことであった．

バーディン広場に立つと　鮮やかな緑の芝生と石畳の向うにホーチーミン廟がベトナム国民の崇敬を受けて建っている(第９図)．　1945年９月２日　ホーチーミンはサンダルに日本軍の軍袴と夏用略上衣という姿で20万のベトナム人民を前に独立宣言を読み上げたその演壇があつた所　そこに今　生前の姿そのままに眠っている．延々と続く参詣の列は開廟中断えることがないという．もし　ベトナム64民族の正装姿が知りたければ　ホーチーミン廟に参詣することだ．　少数民族の人々をベトナムで最初に人間として接し　その伝統を守り　幹部に登用し　民族に誇りを与えてくれた人　それがバク＝ホー（ホーおじさん）だと少数民族の人なら誰でも語ってくれる．　だから　山なみを越え　せい一杯の正装をして



第７図　ハノイ迎賓館前の通り　写真の正面がホテル　トン＝ニャット

第８図　バーディン広場の通り　正面の木立の中が外務省　こちらに歩いてくる若い女性は人民公安部隊の兵士　日本でいえば婦人警官である．　清々しいお色気と気品を備え　かつ　可愛らしかった．　外務省の入口を守る男性の人民公安部隊員もとても親切であった．　こわい警察のイメージとはほど遠い．

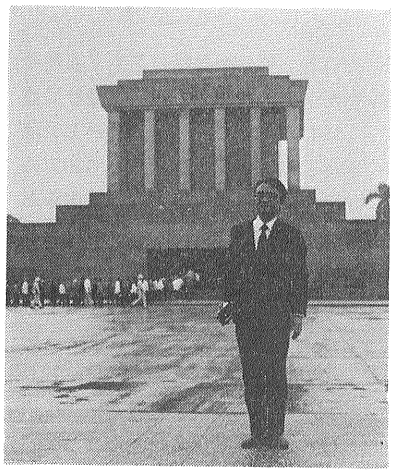
ホーチーミンに逢いにくるらしい．　1969年9月3日79才でその生涯を閉じるまで　ついに独身で通した彼ホーチーミンはしかし幸せな人だと私は思った．　ホーチーミン廟の正面階段を上ったところに躍るように浮ぶ真紅の文字「独立と自由ほど尊いものはない」　そして彼の署名．　私の 1,000km を越える北ベトナムの旅でこのスローガンに接したことのいかに多かったことか．ホーチーミンの肖像に接するよりも何10倍も多く見たのである(第10図)．　ベトナムの人は「ホーチミン主義」とか「ホーチーミン思想」とか言いもしないし　書きもしない．　日本人を含め　外国人が勝手にそう著わすにすぎない．　ベトナムでは「ベトナム労働党の指導」を誇る言葉に接し　或は「バク＝ホーの遺訓」を守るという字句をみるだけだ．　しかし　ホーチーミンは「独立と自由ほど尊いものはない」のスローガンとともにベトナム64民族の心の中に生き続けるだろう．

「自分が死んだ後　残るのは何がある．　地質学の徒として今から何が遺せるのか」．

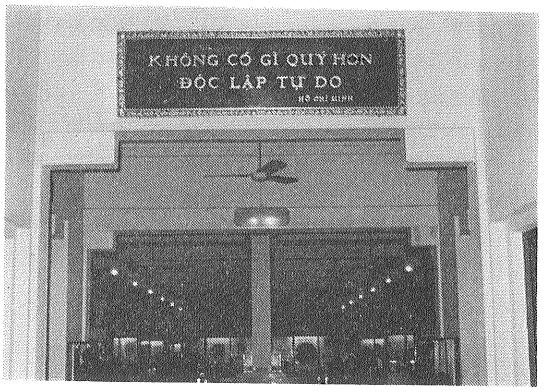
行き交う人々を眺めながら　私は自分に問いかけ　そして　今も問いかけ続けている（第11図）．

ハ ノ イ の 朝

ベトナムの人々の朝は早い．　ハノイももちろん例外ではない．　3月28日　私は朝5時に起き出て　ホテルの裏門を開けて貰って外に出た．　まづ歩いて5分のところにあるホー＝ホワン＝キエム（還剣湖）へ．　湖畔で老人たちが輪になって体操をしていた．　中国の太極拳とは違うが　ゆっくりとしたテンポのまるで幼稚園の遊戯といった感じの体操である．　その横を青年がランニング姿で馳けぬけて行く．　小さなキオスクがあったが　中には誰もいない．　主に雑誌を売っている様子で私の読めない標題の雑誌が16種　表紙をこちらに向けてガラス窓の向うに並んでいた．　地質は Địa Chât と書く筈だから　探してみたのだが　全然見当らなかった．湖畔に一つの寺がある．　玉山寺というのだそうだが赤いネッカチーフをした子供が3人　せっせと境内を掃

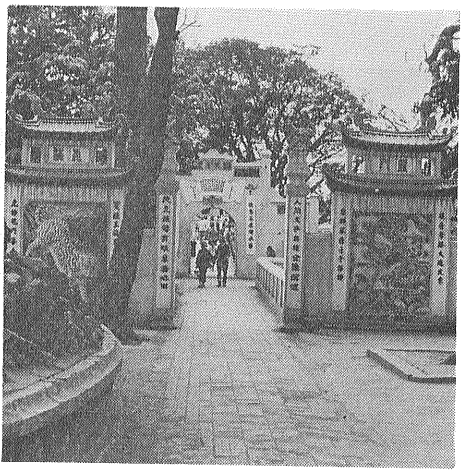


第9図
ホーチーミン廟の前に立つ筆者　廟に詣でる人の列が霧雨の中を延々と続いていた．



第10図　ハノイの歴史博物館一階ホールの正面に掲げられた「独立と自由ほど尊いものはない」のスローガンのレリーフ．　中を見学すれば　その実感がひしひしと胸に迫る．

第11図　ゲティン省の省都ビン市に近いナム＝リエン村にあるホーチーミン記念館　彼の一生を証明する品々が壮厳さの中にも美しく並んでいる．



第12図　ハノイ市内ホワン＝キエム湖湖畔の玉山寺　今も線香の煙がたえない．

いていた（第12図）.

小さな電車が走ってくる.　「よし　乗ってやろう」と思って湖畔の停車場に行く（第13図）.　ところが　こちらに向って走ってくるランニング　パンツ姿の青年が何と団員の一人K君.　彼は4時半に行動を開始して子供たちとサッカーをやってきたという.　そして今から郵便局へ手紙を出しに行くという.「電車に乗ろう」とさそったが　ホテルに帰って着かえてからデパートに行くと言って断られた.

そこで電車は断念して郵便局まで一緒に走った.　午前5時30分を少し回っていて　郵便局はすでに開いていた.　彼は国際郵便局へ　私はその隣の国内郵便局へ.窓口は東京の中央郵便局の1/3くらいの長さ.　左の偶に記念切手売場があり　手真似ながらどうにか米機撃墜記念切手集12枚組を210円（3ドン）で手に入れた.　ベトナム語では3をバーという.　本当のところは居合せたベトナム人が3—4人手伝ってくれたので買えたわけだが　私がバーと尻下りに問い直したら　ベトナム人たちが一勢に吹き出して笑い　窓口の娘さんはムクれた表情.　わけがわからず　つい　「パチェムー（どうしたのです？）」とロシア語で口ばしったのが幸して　ベトナム人の一人がロシア語で理由を説明してくれた.

「あなたの発音では〝婆さんや〟ということになるのですよ.ハッハッハ」.

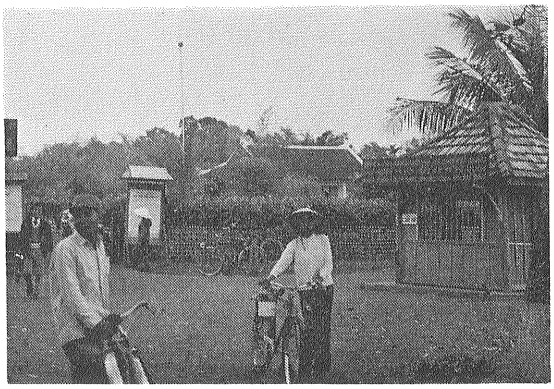
なるほど.　そこで私は勢一杯ていねいにわびたつもりだが　当の若い娘さんはすでに気嫌を直してニコニコ笑っていた.　どうも　ベトナム語はむずかしすぎる（第14・15図）.

そんなことで手間どり　私がチャン＝ティエン通りのデパートに着いたのは午前6時を少し過ぎていた.　デパートは開いたばかりなのに客は1階にも2階にもそれぞれ20—30人いたであろうか.　日本のデパートのような派手さはどこにも見当らない.　店員の数も少ないしとくに制服を着ているわけでもない.　ただ　上衣だけが紺の長そでに統一されているだけ.　しかも通路というかフロアーというか　空地が広くて　ゆったりと買物ができる.　日本のデパート経営者なら眉をひそめてもったいない使い方だというであろうし　日本の消防署員ならニコニコしてこれなら文句なしと言うだろう.

図13第　ホワン＝キエム湖畔の電車とそれを待つ人々

第14図　ベトナムの娘たち　中学生から高校生くらいだろうか　それにしても肥満児には逢わなかった.　スマートで可愛らしい.

第15図　国際ホテルの服務員たち.　ズボンは黒一色だがブラウスはどうしてどうしておしゃれである.すべて手作りとか　実際に銃を手にファントム爆撃機と斗った人も何人かいた.



第16図　ビンのホーチーミン記念館の近くで.　ノンをかぶった村娘一人.　農業合作社の働らき手　働らき者はもててもてて困るのだそうで.　この娘さんも大もてなのだろうか　ホッソリとした眼のきれいな人であった.

商品は日常生活に必要なものが主体で　電気冷蔵庫もクーラーもテレビもないし　既製服のブラ下りもない．だが　生地やらノンというベトナム女性愛用の帽子（第16図）　漆器　万年筆　文房具　石けんから粉ミルク　化粧品やらアクセサリー　おまけにホーチミンサンダルまで一通りの雑貨は揃っていた．　要するに　ハノイのデパートとは大型雑貨店で　ここに無いものはそれぞれ専門店でどうぞというわけである．　いずれにしても国営商店だから　競り合うことはない．　ガードマンも居ないし受付嬢もいない．　服務員と呼ばれる売子さんの愛想もいいし　親切だ．

「チャオ　ドン　チー」と呼べば　少々発音が違っていてもすぐに来てくれる．　物を買って　その場で金を払う．　お釣をくれるので　そのまま礼をポケットに入れると　チョット待てとやられる．　レシートの代りでもあるまいが　メモ用紙（といってもザラ紙を切ったものだが）を出して　計算をしてみせてくれる．

「貴方が買ったホーチーミンサンダルは１足１ドン40スー　それが２足で２ドン80スー．　貴方が払ったお金は５ドン．　だから差ひき２ドン20スーがお釣である．チャンと数えて受とられよ」

かくして　私に渡されたメモには

$$\begin{array}{r} 5.00₫ \\ -2.80₫ \\ \hline 2.20₫ \end{array} \qquad 1.40₫ \times 2 = 2.80$$

と書かれている次第．　仕方なくポケットからお釣をとり出して数え　ニッコリ笑って

「カムオン　ラム（どうも有難う）」

と言えば　相手もニコッと笑って終りになる．

ついぞ　お釣りに間違いがあったためしがない．

因みに　ドンの交換率は１ドル＝4.35ドン　１ドンは10ハウ　１ハウは10スー．　でもハウを使うよりも１ドン＝100スーで表わす場合の方が多い．

デパートを出たら　出勤時間にぶつかった．　車道一杯にまるで私に向って迫ってくるような自転車の集団・集団・集団に私はたじろぎを感じた．　威圧といってもよい．　相のりの自転車も少なくない．　げに壮観であった．

翌日の朝も５時に起きた．　タクシーの無い世界唯一（？）の首都ハノイでは　遠出するには何と言っても自転車である．　バスもあるし　電車もあるのだが正直のところ乗ったら何処へ連れて行かれるのか行先標示が理解できない．　その自転車だが　これがまた日本人には向いていない．　サドルが高すぎ　調整するのも面倒である．　私がとくに短足というわけではない．　友好訪問団の誰一人として　サドルの高さが自分にピッタリと鼻をピクつかせた人はいなかったのである．

そうなれば　仕方がない．　ただ足に任せなくてはならない．　私は北部の古い町並をたどってみた．　撒水車が道路を清めながら　通り過ぎる．　迎賓館（第16図）の前の小公園（第17図）で１服しながら　ハノイの朝を満喫する．　空気がうまい．

リー＝トアイ通りをブラリブラリと歩く．　とある一軒の家に幼児を抱いた母親が一人　また一人と訪ねては一人身で去って行く．　一見　何の変哲もない民家　庭のない普通の民家だったが　どうやら保育所らしい．出入口に木の柵があることだけが特徴で　気をつけて歩けば　何ケ所も同じような家が目についた．　さらに歩く．　空け放たれた窓越しに食事中の親子５―６人の姿が目に入る．　失礼と思いながら　食べているものに好

第17図
ハノイの迎賓館（もとのフランス総督府）
ここに泊った日本人としては野坂参三　宮本顕治　蔵原惟人　不破哲三などの名が挙げられた．

第18図
迎賓館前の小さな公園　よく掃き清められてきもちのよい憩いの場であった．

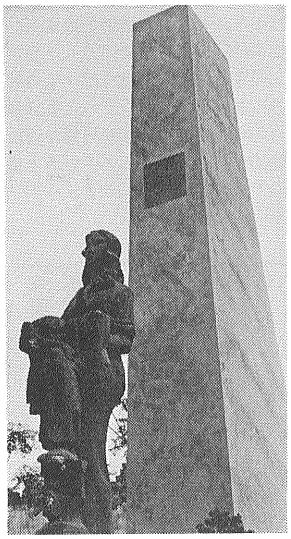
奇心が働いてチラリと見やると　ホテルでも朝よく出てくる「きしめん」風ベトナムうどん．　鶏のスープを使って厚い豚肉やら春菊やらゴッテリ入った　幅さまざま厚さまちまちの楽しいうどんである．　どれくらい肉が入っていたかは定かでなかったが　長い箸が激しく動いていたように記憶する．

どこがどこやらわからなくなって　ふと前方を見ると一軒の家の前で行列ができていた．　例によって何でも見てやろうと列に加った．　ねじりドーナッツ風の揚げパンや白い大型むしパンの類の売り出しで　日本にはもう見られないような大型揃いであった．　食物には縁の薄い私なので　1個3円50銭らしいというところで列を離れた．

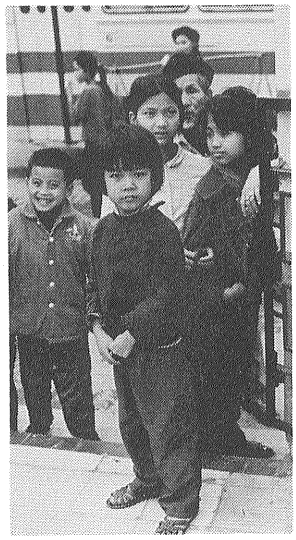
ソン＝ホン河の土堤に出ればホテルまで帰れると思い目検討をつけて歩いていたら　一人の青年が近よってきて帽子を脱ぎ　丁寧に頭を下げ　「ペラペラペラ」と何か尋ねる様子．　これにはスッカリあわてさせられた．とっさに「トイ　ニャット　バン(私は日本人です)」となけなしのベトナム語で答えたら　彼はハッと目を見開き　また丁寧に頭を下げて通り過ぎて行った．　私は苦笑しながら朝食をとり　思い出しては今でも苦笑している．　カメラを持っていなかったとはいえ　眼鏡はかけていたのに．　それにしても　あの青年の礼儀正しい態度は忘れられない，

母　子　の　像

それは3月24日の夕刻のことだった．　ハノイ市内の見学を終えたとき　とくにアメリカの爆撃の跡を見たいと希望し　マイクロバスの行先が変った．　着いた所はカム＝ティエン通り　普通の住宅街であった．　そのほぼ中央に鉄柵があり　待つことしばし　一人の老人が長くて太い線香の束をくゆらせながら現われ　鉄柵を開いて一行を招き入れた．　そこには眼を閉じてダラリと手を垂れた幼な子を抱いた若い女性の像と高い石碑が立っていた．　母子の像だと言う（第19図）．



第19図　母子の像　像そのものの材質は粗末なものであったが　えりを正さずにはおれないきびしさがこもる像であった



第20図　"母子の像"の入口に集ってきた子供たち　こざっぱりとした服装のこの子らに親の気持がよく汲みとれた

もと南ベトナム民族解放戦線政治部の幹部ホン＝ハ氏は日本語で次のように語ってくれた．

「この町はフランス支配時代には花街だったところですが　1945年の8月革命で解放され　労働者の住宅街となり　対フランス抵抗戦争のときには祖国の解放に協力して政治斗争の一つの拠点ともなっていました．　しかし完全に解放されたのは1954年10月10日　政府とベトナム人民軍がハノイに帰ってきてからです．　それからこの町はハノイ最大の労働者団地として大きく発展しました．

ところがアメリカ大統領ニクソンは　1972年4月16日B52を使ってハノイの無差別爆撃を始めました．　そして12月26日　この町が爆撃され　383人の人が死に　386人の人が負傷し　300軒以上のアパート・住宅が完全に破壊されてしまったのです．　この像はこの非道な帝国主義者のために犠牲となった人々を偲んで建てたものなのです」．

一行が黙とうしているのをみて　近所の人々が集ってきた．　無事であった人々の姿　とくに子供たちの悧口そうな元気な姿を目前にして　心が少し和む思いであった（第20図）．

「確かあの頃　アメリカ上院外交委員会は〝中国・ソ連に気がねなく北爆可能〟と報告しましたね」と私は聞かずにはおれなかった．　彼は卒直に答えてくれ　そして次のように結んだ．

「私は日本の親しい友人たちが4月20日にニクソンのハノイ・ハイフォン爆撃に抗議し　反米愛国のベトナム人民の闘いの支援に国際的な団結が何よりも重要なことを世界に訴えられたことをよく知っています．　日本の親しい友人の皆さんが私たちへの支援をそれまで以上に強められたことにも深く感謝しています」

死んだ我が児を抱いてすっくと起つ若い女性の像と広島の平和公園に千羽鶴を高くさし上げて立つ少女の像が重なるようにして浮んでは消え　また浮んだ．

さらに　数日後　私は地上からまさに抹殺された町に呆然として立つ日を迎えたのである．　1945年8月31日夕刻　復員して広島駅前に呆然と立ちすくんだときのように．